越教組ニュース

第40回主任手当拠出金による文化公演

埼玉県内最長の取り組みに幕

二〇一九年二月十一日（第四〇回）越谷主任手当拠出金による文化公演が行われます。越教組は、特定の主任にだけ手当を出すことには職場に上下関係と分断を持ち込むとこれに反対。そして、主任手当拠出運動を始めました。それが、脈々と受け継がれ、県下では最長の四〇回目を迎えることとなったのです。今年度が最終公演となりましたが、しめくくりにふさわしく、たくさんの参加で成功させましょう。

主任制度のねらいは上意下達

主任制度は、教育委員の任命化、それに基づく勤評、教頭の法制化という学校の管理強化、上意下達の学校作りの一環として提案されたものでした。一九七〇年、文部省の省令によって学校に教務・生活指導・健康の三部長（主任）を中間管理者として新設するとともに、給与上の特別措置を行うという提案がされます。それが、職場に上下関係を持ち込むと、多くの国民、学者、組合などの反対にあい、当初の提案を撤回させ、「主任は指導・助言する職務を持つだけで、一般教職員の上司ではない」と変えさせて、学校教育法施行規則が「改正」されたのです。

越谷市教職員組合
情宣部
19.01.29（火）
Tel 988-3281
Fax 988-3283

主任手当とは

「教育業務連絡指導手当」を言います。給与支給明細書には「日額特殊勤務」とされています。特定の主任にだけ、「教育業務についての連絡調整及び指導助言した日一日につき200円支給」となっています。実際には、勤務日数で支給されています。支給されているのは、以下の主任・主事です。

・教務主任、学年主任（3学級以上）、生徒指導主任、保健主事、進路指導主事（6学級以上の中学校）

【文部省の言い分】主任手当の支給は、主任等の職務の重要性にかんがみ、これを給与上評価し、教員給与についての優遇措置の一環として行つたものであります。

越教組は百二十三名がストに参加

制度導入までには、全国で大反対運動が起きました。埼教組・埼高教も激しく抵抗。越谷だけでも、越教組は七六年一二月に百二十三名がストライキに参加。当日の集会には四〇〇名が参加しました。（裏面参照）七八年に越教組が市内教職員（二九五名回答）に行ったアンケートでは、主任手当制度に反対が約八〇%、賛成が二%、分からないが十八%というものです。導入当時から現場には不要なものとみなされていたのです。省令の成立を受け、埼玉県でも強行、一九七八年には主任手当支給が始まりました。

そんな中で、主任手当は職場を上下関係と分断を持ち込むものだと、この制度に反対し、手当を「私」することなく子どもたちの教育に還元しようという主任手当拠出運動が始まります。この運動は組合員以外にも多くの方が賛同、主任手当を拠出していただきました。一九八〇年三月の第一回越谷市主任手当拠出金による文化公演は、新星日響のコンサートで午前・午後合わせて三〇〇〇人近くの観客、およそ二〇〇万円をかけた大イベントでした。この年から毎年、一〇〇万円～二〇〇万円をかけて、子どもたち向けのコンサートや劇、影絵、人形劇などの文化公演を続けてきました。

一貫して市民・子どもたちに還元

主任手当拠出金は、組合が中心に管理してきましたが、組合の会計とは全く別会計。拠出公演以外に使うことはありませんでした。それが、越教組が県内でも最後まで続けてこられた理由です。また、私たち越教組の「誇り」でもあります。

現在、手当が出される主任が上司ではないというのは、多くの国民、教職員の主任手当反対運動のたまものなのです。この主任制度反対の取り組みは、職場に格差は持ち込ませないという学校づくりの土台、土壌になってきました。とりわけ埼玉県は、組合と県教委が主任選出の覚え書を交わしたり、教職員の成績を給料に反映させる成績主義賃金の導入では格差の弊害を極力抑えた制度にしたり、現場に格差を持ち込ませない土壌となってきました。

長い間、この拠出運動にかかわってくださった先輩諸氏、教職員のみなさん、ありがとうございます。今後ともこの主旨が継続される働きやすい職場にしていきましょう。